



一般財団法人日本建築センター
The Building Center of Japan

システム審査部発行

〒101-8986 東京都千代田区神田錦町 1-9

TEL 03-5283-0476

FAX 03-5281-2827

ホームページ <https://www.bcj.or.jp>

Eメール sinsa@bcj.or.jp

ISOだよりの所有権はシステム審査部に帰属します



「2018年度 第2回 ISO情報交換会」
を開催致しました

一般財団法人 日本建築センター システム審査部 (BCJ-SAR) では、認証組織の皆様がマネジメントシステムを効果的に運用して頂くために有用な情報をご提供する場として、毎年「ISO情報交換会」を開催しております。今回は、2018年度第2回として次の内容で実施致しました。

「2018年度 第2回 ISO情報交換会」の内容

- リスクと機会 (取組みの計画から有効性の評価へ)
- リスク及び機会への取組みと目標設定について (運用事例の情報交換)
- QMS/EMS 運用に関わるご質問・要望事項
【講師：吉田 茂】

＜開催日程＞

2019年3月6日 (高崎)

2019年3月12日 (東京)

2019年3月13日 (大阪)

■ リスクと機会 (取組みの計画から有効性の評価へ)

「リスクと機会 (取組みの計画から有効性の評価へ)」では、吉田審査員から審査で明らかになった「リスク及び機会」の展開事例と「リスク及び機会」の見直しのためのチェックポイントについて説明しました。

＜主な質疑応答＞

Q: 「リスク」は、記録に残すのか。

A: マネジメントレビューのインプットの一つとして、リスク及び機会への取組みの有効性の確認が求められており、それ

らの情報がインプットとして取り上げられていることは必要であるが、「リスク」そのものを記録に残すことは、規格の要求事項ではない。

Q: 「リスク」を事業計画の中で評価しているが、問題ないか。

A: 事業計画の中で、「不確かさ」の「影響」を監視・測定し、「リスク」への取組みの有効性について、マネジメントレビューへインプットする運用であれば良い。

Q: 取組む必要があるリスクを目標に展開した場合、6.2.2の「実施事項」、「必要な資源」、「責任者」、「実施事項の完了時期」、「結果の評価方法」について明確にすべきか。

A: これらは品質目標に対する要求事項なので、決定する必要はある。

Q: リスク及び機会への取組みの有効性確認を内部監査で実施することは問題ないか。

A: 問題ない。

Q: 施工現場固有のリスクは、どのように管理していけば良いか。

A: 個々の施工現場の状況にもよるが、不確かさの影響から重要度 (強・弱) を判断したうえで、どのように監視、測定するかの管理手順を決めていけば良い。

Q: リスクへの取組みを品質目標に展開していく場合は、達成度を数値で示せなくてもよいか。

A: 必ずしも数値で示す必要はない。定性的なパフォーマンスデータでも良い。

Q: 現場特有のリスク及び機会は、施工計画書の中で管理しているが、問題はないか。

A: 問題ない。

■リスク及び機会への取組みと目標設定について（運用事例の情報交換）

「リスク及び機会への取組みと目標設定」をテーマとした情報交換では、ご参加の認証組織の方々が使用されている以下の情報をご提供頂き、リスク及び機会から目標への効果的な運用について、運用事例の情報交換を行いました。

①決定した「リスク及び機会」の事例

②設定した「品質・環境目標」の事例

ご提供頂いた「リスク及び機会」、「品質・環境目標」の内容と文書の形式は、多様で、それぞれ特色がありました。

＜主な質疑応答＞

Q: リスク及び機会が記載されている書式で良い事例はあるか。

A: リスク及び機会は、組織の業種、状況により違いがあり、取組む必要のあるリスク及び機会も違うため、一概に良い事例はあげられない。

Q: 2015年版の運用が3年目となり、取組むべきリスク及び機会の大部分が継続課題となっているが、問題はあるか。

A: 継続課題自体問題ないが、継続課題の内、重要度に強弱のメリハリを与えて管理することも一つの方法である。また、外部及び内部の課題の変化、新規事業の開始、新たな現場固有のリスクが確認された場合等は、取組むべきリスク及び機会も変わることになる。

Q: リスクよりも機会を前向きと捉えて、機会を中心に管理することは問題か。

A: 問題ない。

Q: 売上げ目標については、審査対象外とのことだが、品質目標とすること自体に問題はあるのか。

A: 売上高やコストに係る目標を設定し、運用することは組織の自由であるが、必ず品質に関し追求し目指す目標(品質目標)が設定されていなければならない。また、全ての部署が品質目標を掲げる必要はない。

■その他、QMS/EMS 運用に関わるご質問・要望事項

今回の ISO 情報交換会では、参加組織

の方々から事前に質問・要望事項をご提示頂き、以下の内容について、交換会当日に説明しました。

Q: リスク及び機会への取組みは、外部・内部の課題や利害関係者のニーズを考慮し決定しているが、この他の要因からリスクを決定して取組んでも良いか。

A: 問題ない。

Q: リスク及び機会への取組みを決定するための情報として、外部・内部の課題や利害関係者からのニーズの他に、例えば内部監査・マネジメントレビューの結果、是正処置の情報、4M 変更、新設部材等から情報を得ても良いか。

A: 問題ない。

Q: 4M 変更等のリスクは、製造を行ううえでは常に発生するため、条件変更プロセスの仕組み(届出～検証～承認)をつくって、QMS に組み込み、運用しているが、品質目標に取り上げなくても問題ないか。

A: 必ずしも品質目標に設定していなくても問題ない。

Q: QMS への展開として、リスクに取組む内容を必ず標準化する必要はあるか。

A: 必ずしも標準化する必要はない。

Q: 製造品質リスクについては、本来はQMSへ標準化して取組むべきなのであろうが、品質目標に展開して取組むことでも問題ないか。

A: 品質目標に展開して取組む運用でも問題ない。

Q: リスク及び機会への取組みで、リスクと機会のどちらで対応して取組んだ方がよいか。

A: 各組織においてやりやすい方で対応すれば良い。

Q: 会社の仕事内容が変わらないため、環境側面、影響と毎年同じになり、目標をどう展開すればよいか。

A: 例えば、「リスク及び機会」や「環境方針」等から、新たな環境目標を展開する方法等がある。

Q: JIS Q 9001「8.5.1 f)プロセスの妥当性確認」について、以前審査員からBCJで「対象となるプロセス」とその「妥当性確認方法」の例をまとめ、提示している

と伺ったことがあるので、提示していただけないか。

A:「MS 審査方針及び規格解釈 (MSR37【2015】-14)」の抜粋を提示します。

◆対象プロセスの事例

- ・鉄骨溶接（現場溶接だけではなく、工場溶接も該当する）
- ・コンクリートの打設
- ・圧接
- ・場所打ち杭
- ・塗装
- ・鍍金
- ・熱処理（素材は除く）
- ・接着

◆プロセスの妥当性の確認（実施方法）の事例

- ・JIS Z 3040「溶接施工方法の確認試験」などの基準を適用した確認試験を計画・実施（期待する溶接強度が得られることを確認する）。
- ・必要事項を記録した「確認試験記録」を作成。
- ・コンクリート打設は、日本建築学会建築工事標準仕様書 JASS5（鉄筋コンクリート工事標準仕様書）、日本土木学会規準又は JIS を適用し示方（設計者によって仕様書などで行われる混合比の指示）配合を検討し、試験練り後、強度試験をする。
- ・塗膜の強度（付着性）を試験する方法として、テープ付着試験、トルク付着試験、引っ張り付着試験等があるが、国内の官公庁規格では全て、テープ付着試験を採用している。（JIS K 5600 参照）
塗膜にカッターで切りこみを入れた後、テープを貼り付け、テープを剥がし、剥離の程度で評価する。
下地処理、塗料の希釈度合い、乾燥時間、塗装方法等を決定する。

■「2018年度 第2回 ISO 情報交換会」に関する総括

今回の「ISO 情報交換会」では、活発な意見交換、質疑応答が行われ、情報交換会終了後、今回の内容は、大いに参考になったとのご感想を多数頂きました。

今回、ご参加頂くことができなかった認証組織の皆様方には、当日の資料の一部を後日配付させていただきます。認証組織の皆様方にとっては、今後の「リスクと機会」の取組みの運用において参考になるかと思っておりますので、是非ご一読下さい。



【お問合せ先】

一般財団法人 日本建築センター
システム審査部

TEL：03-5283-0476

FAX：03-5281-2827

E-mail：sinasa@bcj.or.jp

● 2019年度認証判定会議の日程は下記のとおりです ●

| | |
|----------|-----------|
| 2019年 | 4月24日(水) |
| | 5月22日(水) |
| | 6月26日(水) |
| | 7月24日(水) |
| | 8月28日(水) |
| | 9月25日(水) |
| | 10月23日(水) |
| | 11月27日(水) |
| | 12月25日(水) |
| | 2020年 |
| 2月26日(水) | |
| 3月25日(水) | |

「2019年度 ISO 内部監査員養成セミナー」のご案内

ISO のシステム構築と運用に当たって最も大切なことは、核となる人材を組織内に育成することです。

認証機関との打ち合わせ、審査への対応、審査で指摘された不適合の是正処置及び回答等、組織内に対応できる人材を育てる必要があります。当財団では、ISO 9001（品質）・14001（環境）の社内的定着を図るための核となる人材を育成するためにセミナーをそれぞれ開催しております。受講された方には修了証を交付します。

※出張講習についてご希望の場合は、ご相談下さい。

| | | ISO 9001（品質）コース | ISO 14001（環境）コース |
|---|---|----------------------|------------------------|
| 開催日 (2日間) | 東京 | 2019年7月8日(月)～7月9日(火) | 2019年7月10日(水)～7月11日(木) |
| プログラム | 1日目 | 規格解説、考査 | 規格・環境法令の解説、考査 |
| | 2日目 | 内部監査手順の解説・演習、考査 | 内部監査手順の解説・演習、考査 |
| ※ 1日目だけ又は2日目だけの受講も可能です。 | | | |
| 受講料 | 2日間： [BCJ 認証組織] 41,100 円（税込み） | | |
| | 1日目又は2日目のみ： [BCJ 認証組織] 20,800 円（税込み） | | |
| ※ 受講者全員にオリジナルテキスト付。なお、ISO 規格書は別途ご購入下さい。 | | | |
| 定員 | 20名 | | |
| 主催 | 一般財団法人 日本建築センター 情報事業部 | | |
| お問合せ先 | 草原・岡林あて TEL：03-5283-0477 / FAX：03-5281-2828 / E-mail：kusahara_e @bcj.or.jp | | |